

平成30年
(2018年)
12.15
No.845


広報ほっと京たなべ

http://www.kyotanabe.jp/

発行／京田辺市
〒610-0393 京都府京田辺市田辺80
☎0774-63-1122 / FAX 0774-63-4781
FAXでも問い合わせを受け付けます

■ 主な内容
02 暮らしの情報・京たなべ de 子育て
04 年末年始のお知らせ

f 市公式フェイスブックで最新情報をチェック!




三国境にひっそりとたたずむ朱智神社
京都・大阪・奈良の三国境付近の尾根にひっそりとたたずむ朱智神社。府登録文化財に指定される本殿を構えるこの神社は、もともとは、八坂神社の祭神（牛頭天王）をまつっていたことから、八坂神社の元となる神社といわれています。このほど、史跡として府暫定登録文化財に追加登録された境内は、黄色や赤のカエデで染まっていた（Y）

未来へつながる 2018

今号の広報紙が今年最後の発行です。「平成」から「新たな時代」へとつながるたくさんの明るい話題がありました。来る年が皆さんにとって、輝かしい一年となりますように。

山手幹線京田辺エリア全線開通 南北つなぐ幹線道路



国道1号から、同志社・同志社女子大学京田辺キャンパスを経て、国立国会図書館や研究施設などが立ち並ぶ精華大通り付近までを結ぶ山手幹線。三山木～精華町下狛（約1.5km）が3月に開通したことで、本市を南北につなぐ交通の大動脈が誕生し、ますます便利に！

水辺の散策路新たな2ルート完成 四季を感じて健康づくり



四季折々の自然に親しみながら散策やウォーキングが楽しめる川沿いの道「水辺の散策路」を順次整備しています。
3月には、普賢寺川沿いの2ルートが新たに完成し、初夏には、日本遺産「飯岡の茶畑」を眺めながら歩くウォーキングイベントも開きました。

学研都市の北の玄関口として快適な街並みに 南部の拠点「三山木中央」誕生



平成8年度から三山木駅周辺の31.2ヘクタールで行ってきた三山木地区特定土地区画整理事業の工事完了に伴い、5月に地名を「三山木中央～九丁目」に変更しました。
JR・近鉄線の高架化や、歩道・自転車道の整備などにより、駅近で快適な住空間が誕生しました。

国際自転車ロードレース「ツアー・オブ・ジャパン京都ステージ」 世界大会でにぎわいを呼ぶ



5月、第3回目となる国際自転車ロードレース「ツアー・オブ・ジャパン京都ステージ」が、本市・精華町エリアで開かれました。世界のトッププロ選手が、巧みな技術とスピードで駆け抜ける姿を一目見ようと、同ステージ最多となる53,000人の観客を記録しました。
世界各国から約100人の選手がセレモニーランのスタート地点「普賢寺ふれあいの駅」に集結

こども園が同志社山手に 府内初の公私連携協定締結 未来を担う子どもを育て



市は、来年4月に同志社山手地区で予定している幼保連携型認定こども園「こもれび」の開園に向けて、運営を行う社会福祉法人みみづく福祉会とタッグ。6月に、認定こども園法に基づく公私連携協定を府内で初めて締結しました。


笑顔で握手する石井市長とみみづく福祉会の鈴木理事長

田辺高校・同志社大学などとの連携 夢を運ぶ北陸新幹線



同志社大学などと連携協定を結ぶ本市は、7月に、府南部の工業教育の拠点校・府立田辺高等学校と新たに連携協定を結びました。11月には、同大学京田辺キャンパスで開かれた同志社クローバー祭で、同高校鉄道研究部と美術部の皆さんが制作した北陸新幹線のミニ鉄道が華々しくデビューを飾りました。
学生のチカラで北陸新幹線の新駅設置をPR

文化に触れる機会の提供と芸術家の発掘「京田辺市展」 美しく品格のあるまちへ



12月、南山城地域の芸術作品が集結する「美」の祭典・第2回京田辺市展を開きました。115人から寄せられた力作の中から、絵画・書・写真ごとに審査を行い、選ばれた97点を展示。来場者は前回より200人以上増加し、たくさんの市民が芸術に触れました。